



#### DATA

### リフォレ積丹ユースホステル

〒046-0202 北海道積丹郡積丹町婦美町444-7  
電話: 0135-44-3277 URL: <http://www.shakotan.net/>

山・海・滝・丘など雄大な手つかずの自然が多く残る北海道積丹町にあるこのユースホステルには、アウトドアスポーツやネイチャーウォッチングを楽しむ人達が一年を通して訪れる。2010年に北海道庁が運営する、地場の食材を積極的に使い、こだわりの料理を提供する宿泊施設として「北のめくみ愛食レストラン」にも認定。

手つかずの自然を満喫できるエリアにあるユースホステルは、  
ゲストの旅に寄り添ってくれる場所だった

# 旅の魅力を最大限に 引き出してくれるユースホステル

Youth Hostel  
Pick Up

リフォレ積丹  
ユースホステル



## 絶景と海の幸 旅の魅力を凝縮した積丹半島

北海道の道央エリア、"後志(しりべし)地方"にある積丹半島。江戸時代初期から鯨(ニシン)漁で栄え、1996年に全線開通した国道229号線により半島を海沿いに周回できるドライブスポットとしても有名になった。近海の透明度はとて高い。夏に見せる紺碧の青は"積丹ブルー"と呼ばれ、見るもの全てを感動させるほど美しく、道内はもちろん道外の観光客を虜にしている。その他にも、日本の渚100選に選ばれた「島武海岸(しまむいかいがん)」、絶景の岬、海岸に並ぶ奇岩も観光スポットとして人気が高い。そして近年の積丹人気を支えているのが「食」の魅力。6月から8月はウニ、秋はマグロ、アワビ、冬はタラ、ホッケなど海の幸を堪能できる場所として食通も唸らせている。そんな旅の魅力に溢れた積丹町で、長年多くのゲストを迎えてきたのが「リフォレ積丹ユースホステル」だ。

新千歳空港駅から小樽駅までJR快速エアポートで1時間強、そこからバスで1時間強で積丹町中心地に着く。積丹町中心地からバスもしくはタクシーで5分程度走った山の中腹に「リフォレ積丹ユースホステル」がある。「積丹半島は、楽しめるスポットやアクティビティが本当に多くて、旅が多様化した今でも満足度が高い体験ができる場所なんです」。淹れたてのハンドドリップコーヒーと人気の自家製チーズケーキを頂きながらオーナーの加藤明さんに話を聞いた。

## 海と山四季を通じて楽しめる様々なアクティビティ

「このユースホステルがある積丹エリアは、海も山もある場所なので、様々な過ごし方ができます。例えば観光に適さないと思われる真冬の時期でもトドやアザラシの観測できるダイビング目的で訪れる方もいるし、3月になれば、ホッケ釣りが好きな人にもたまらない季節。スキー場は無いですが、山には良質のパウダスノーがあるので、それを求めて多くのバックカントリースキーヤーも訪れます。ここまで海のアクティビティと山のアクティビティが揃っている場所も日本では珍しいと思います」。

学生時代から旅が好きだった加藤さんは、北は礼文島、南は与那国島まで日本全国各地を巡ったが、自分の波長に合ったのは北海道だったという。「雄大な自然や、それを楽しめる様々なアクティビティも魅力ですけど、料理の味付けや食材そのものの味が自分の舌に馴染んだというのも大きかったですね」。北海道に魅了される中で、自身でも旅好きのゲストをもてなしたいという想いが芽生え、美国ユースホステル(1996年閉館)で1年間ヘルパーとして働き、1度地元関西に戻るものの、30年前に再びこの地に移り住んだ。実際に移り住んで加藤さんはさらに積丹の魅力を再認識したという。「積丹エリアは、手付かずの自然に恵まれていて、食材も豊富。米さえ自給できればなんでも手に入るですよ。湧き水もあるし、漁師さんからカレイをもらったり、農家さんからびっくりするくらいのニンジンなどの野菜をもらう事もあります。素材が素晴らしいから、シャケをスモークにしたり、ホッケをひつまぶしにしたり、ちょっとした手間で本当にご馳走になるんですよ」。

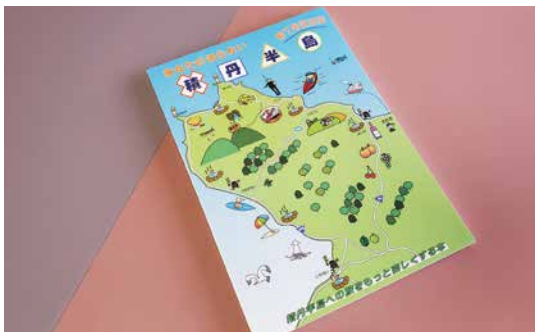


### PROFILE 加藤 明

大阪府出身。学生時代に、北は礼文島、南は与那国島など日本全国を巡り北海道の魅力にはまる。神戸で北海道の食材でもてなすレストラン「きたぐに自由席」を経営し、1993年に北海道積丹町で小さな宿を開業し現在に至る。自身が訪れた場所を紹介する積丹半島のガイドブック「あなたの知らない積丹半島」も好評。



## 積丹への愛が生み出したゲストに寄り添うサービス



積丹半島への愛に溢れる加藤さんがライフワークとしているのが、ローカルガイドブック『あなたの知らない積丹半島』の制作だ。1999年の創刊以来、これまでに全7冊が発刊されている。ページを開くと海産物を楽しめる寿司屋やレストランはもちろん、温泉、アウトドアスポット、積丹半島で釣れる魚、自然観察できる花や動物たちも写真付きで紹介されている。これらは実際に加藤さんが足を運んだスポットで、加藤さんの「積丹半島の魅力をより多くの方に知ってもらいたい」という想いが伝わってくる。「積丹の魅力をどう伝えられるかをずっと考えていたんです。写真を撮ることや、文章を書く事が元々好きだったので、ガイドブックにするということは、自分にとって自然な事でした。ここまで続くとは思いませんでしたけどね(笑)」。

取材を重ねることで、ユースホステルに宿泊するゲストへ還元できることも増えたという。「僕自身が、より積丹半島の知識を深めることによってゲストの希望を叶えやすくなったと思います。このユースホステルには、やりたいことが明確に決まっている方が宿泊しにいらっしゃいます。こちらが引き出しを多く用意しておけば、それだけゲストのやりたい事のお手伝いがしやすくなることも分かったんです。せっかく積丹まで来ていただくのですから、良い思い出を作って行って欲しいですね。このガイドブックを作るのは、資金的にも労力的にも楽ではないのですが、出版して良かったと思っています。積丹を知り尽くすことによって、サービスへの余裕も生まれたのかもしれない」。

加藤さんのゲストに対するサービスは、良い距離感がある。「僕も旅人だから、ゲストが求めている事が何と無く分かるんです。僕がお手伝いできることがあればするし、僕にできないことであれば他のツアーなどを紹介する。釣り好きのゲストであれば竿を用意したり、お土産にしやすいように釣った魚を捌いて干物にしたりする。過剰になりすぎず、できる範囲でできるお手伝いを心がけています」。こういった加藤さんのゲストに寄り添うようなサービスが好評で、長年大手宿泊予約サイトで高評価を取り続けている。

## 「1日1組への宿」。変化を続けながら、より愛される場所へ

長年多くのゲストに愛され続けてきたリフォレ積丹ユースホステルも新型コロナウイルスの影響は大きく、休業期間を経て再オープンした時に「1日1組限定の宿」へと大きく舵を切った。「この決断は断腸の思いがありましたね。ただこのユースホステルを続けて行くためには必要な決断だったし、そのおかげで喜んでくれるゲストもとても多かったです」。1日1組に限定することによって、泊まり合わせた他のゲストとすれ違うことはない。つまり建物すべてを貸切にするようなものである。安心安全で旅行をしたいというゲストからこの決断は暖かく迎えられたのだ。「もちろん、ユースホステルの醍醐味の一つでもある、他の宿泊者との出会いが無くなって寂しいという声もあります。ただ、時代に合わせて変化するのも大切なことだと感じます。変化しながらも続けて行くことで嬉しいことも増えました。最近10年とか20年ぶりに泊まる人が増えて来て、昔1人旅で宿泊してくれた方が、家族を連れて来てくれたり、娘さんと二人のバイク旅の中で立ち寄ってくれたり、以前宿泊してくれた方が、誰かを連れて来てくれるようになったんです。これは本当に嬉しいことなんです」。

「今は、何かと旅がしづらい状況かもしれませんが、個人的にいつも思うことがあるんです。旅の魅力は何うと、これまで様々な旅をしてきた加藤さんらしい答えが返ってきた。「人生の豊かさは、人との出会いの数で決まるんじゃないかって。旅には様々なスタイルがありますが、旅を通じて人と出会うことはとても貴重な体験です。それがたとえ自分の価値観と異なる人でも、その様な出会いも自分を成長させてきたと思ってるから、僕の人生にとって旅は無くってはならないものなんです。あと、旅を魅力的にする方法の1つとして紹介したいのが「ちょっとした不自由さ」。僕は携帯を持ってなくて、知らない街を旅した時、太陽がこの位置だからこっちが北だなという感じで移動するんです。そうすると迷うこともありますが、迷うことも旅の醍醐味だったりもします。どの時代もデジタルの部分とアナログな部分があって、その2つを上手く使うと、より旅が魅力的になるはずですよ」。

最後に積丹旅行のベストシーズンを聞くと、嬉しそうにこう答えてくれた。「ベストシーズンは、旅する人によって違うものです。ホッケ釣りが好きな人は春先がベストだし、オオワシを見たい人は冬がいいし、ウニに目がない人は6月～8月がベスト。寒さが厳しい2月だって、ドアが開かないとか、タオルを外で回したら凍ったとか本州では絶対に体験できない事ができます。いつお越しただいても何かあるのが積丹地方の魅力です。機会があれば是非お越しください」。

絶景と大自然、そして海の幸を堪能できる積丹の魅力を存分に満喫するのであれば「リフォレ積丹ユースホステル」を拠点にして巡るのがオススメです。

1. ツインの洋室は2室用意されており、窓から見える白樺の森の景色が気持ち良い。 2. 和室は10畳とゆったりした広さが特徴だ。どの部屋も清潔感があり、1人旅からファミリー層まで幅広い層に愛されている。



MAP

## A ヤマシメ



築100年を超える建物は、かつてニシン漁の番屋として使用されていた。趣あるカフェ兼資料館に改装されており、旅の疲れを癒せる。名物「シャコタンブルーカルピス」の色合いは、レトロな雰囲気とマッチする。

北海道積丹郡積丹町美国町船洞39  
TEL:0135-44-2610



MAP

## B お食事処 純の店



積丹の名産ウニを堪能するならこの店。その日にあがった新鮮な積丹産のウニが溢れるほどのった「ウニ丼」は圧巻。ご飯は酢飯を使っており、ウニの甘みと絶妙なバランスを生み出す。エゾパフウニも一緒に買った「赤白ウニ丼」も人気。

北海道積丹郡積丹町美国町船洞42-20  
TEL:0135-44-3229



MAP

## C 鎌田商店



港を見ながら店主手作りのホック、カレーの干物やつぶ貝を浜焼きBBQで楽しめる。想像を超えるほどのホクホク感の干物は絶品。持ち込みも自由なのでコンビニでおにぎりなどを買って行くのもおすすめ。

北海道積丹郡積丹町美国町(美国漁港内水中展望船横)  
TEL:0135-44-2657



### 積丹町ってこんなところ！

積丹町は北海道の西海岸につき出る積丹半島の先端一帯を占めており、日本海に面しながら北海道百山の1つ積丹岳などの山もあるためアウトドアを楽しむのに適している。海の幸にも恵まれ、6月最後の日曜日に開催される「積丹ソーラン味覚祭り」では、積丹名物のウニをはじめ、鮮魚や焼き物を楽しめる。また、7月上旬に開催される「美国神社例祭」は90年以上続く伝統的なお祭り、特に炎を天狗が渡る「天狗のひくぐり」が有名で多くの観光客が訪れる。

※「積丹ソーラン味覚祭り」2022年度の開催はございません  
※「美国神社例祭」2022年度の開催は決定していません

MAP

## D オーシャンデイズ



積丹エリアで海のアクティビティを楽しむならココ。北海道で青の洞窟シュノーケルができるのは唯一ここだけで、神秘的とも言える積丹の魅力を存分に体験できる。日没以降に開催される夜光虫ツアーも人気。

北海道積丹郡積丹町大字美国町茶津内195-1  
TEL:0135-48-7014

MAP

## E 黄金岬



日本有数の美しい朝日が見られるスポットとしても知られる黄金岬は、天気の良い日だと、見事なシャコタンブルーも楽しめるパワースポット。目の前の宝島は、上から見るとハート型の形をしている。

北海道積丹郡積丹町美国町  
TEL:0135-44-3715(積丹観光協会)

MAP

## F カムイファーム



敷地内で育てている鶏の卵などをパン、ケーキやアイスクリームなどを手作りし提供するカフェ。採れたての卵を使ったエッグタルトはふわっとした食感でやみつき。カフェ内には可愛い猫がいて猫カフェ気分も満喫できる。

北海道積丹郡積丹町  
婦美町535  
TEL:0135-48-7756

読者  
プレゼント

抽選で『あなたの知らない積丹半島』5名様にプレゼント!

ご応募は日本ユースホステル協会ホームページの専用お申し込みフォームから!

<http://www.jyh.or.jp/hm/> 応募期間: 2022年8月末日

※なお、当選発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。



## つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.28  
まとめてダウンロード



LiLiCoの映画で世界を旅しよう！…… P16



Cover Interview …… P02

嵐 莉菜  
見過ごされる世界の問題——  
身構えず、知るきっかけに。



おしえて！旅GIRL …………… P17



Youth Hostel Pick up …………… P08

リフォレ積丹ユースホステル  
旅の魅力を最大限に引き出してくれるユースホステル



松島むうの晴れときどき旅びより …… P18



Hostelling Magazine x 地球の歩き方 … P12

各国の朝ごはんを知らう！  
世界の朝食 WORLD BREAKFAST



YH-GUIDE ユースホステルガイド …… P20  
北海道/東北地方



FYI, from HI-Office …………… P15

発行所：一般財団法人日本ユースホステル協会  
編集・発行人 寺島眞  
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1  
国立オリンピック記念青少年総合センター内  
※本誌の情報は2022年6月20日現在のものです。  
変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。  
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。